

第二回 システム企画研究会 議事録

日時: 2012/02/24(金)14:00~17:00

会場: 大阪丸紅ビル 13F E 共用会議室

テーマ: クラウド活用先進企業から学ぶ、クラウド活用の最前線

講演者: カシオ情報サービス株式会社 常務取締役

国吉 典仁 氏

司会・進行: システム企画研究会 座長

帝塚山大学

経営情報学部 教授 博士(国際公共政策) 公認システム監査人

高瀬 宜士 氏

当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

◆第1部◆

国吉様のご講演

◆第二部◆

自己紹介↓

<A社>2011年9月から2011年12月にかけて Google Apps に全社切り替え、同時期に iPhone・iPad を導入しました。今回は、他社における Google Apps の導入事例を伺いたく参加しました。

<B社>SaaS型のSE向け商品管理システムの管理をしています。

<C社>Notesの運用等を行なっています。社内でグループウェアを検討しており、参加しました。

グループウェアの導入予算は取得済みですが、いざ導入となった時に金銭面で上層部から何か言われぬか懸念しているので、説得方法について確認を行っております。

<D社>ソフトウェア開発会社の情報システム管理を行っております。社内情報システム担当ですが、開発環境などの構築及び提供も行なっています。

<E社>部門での情報システム担当を行なっています。各社ごとにサーバあり、全体最適化が行われていないことが悩みです。

<F社>Google Apps やサイボウズ Live などが小規模の会社などで導入をされています。Google Apps を利用する場合に、中国のグレートファイアウォールがありますが、Gmail だけは正常に動作していました。Google Apps は多くの言語に対応している点が優れていると思います。(特に、韓国語に対応している製品が少ない)

<G社>各拠点に物理的にファイルサーバやNASがおいてあり、それらを管理しています。現状の課題としては、拠点ごとに構築されているサーバ類を全社一括で管理を行ないたいと思っておりますが、講演を聴いて、導入コストとシステムの安全性とのバランスをクリアできればクラウドを利用する事はありだと感じました。

<H社>拠点は東京と大阪にあり、情報システム部門を管理しています。現在社内では、iPhoneをひとり一台配

布しているのでクラウドと iPhone で何か利用できるシステムはないか探しています。

<I社> 建築設計会社の情報システム部門を担当しています。以前は、他のグループウェアのツールを利用していたが、震災以降、BCP の観点からグループウェアを Google Apps を利用しており、従業員 2000 人すべて、2012 年 7 月までに導入完了予定です。

ただ、利用者への周知や、マニュアルの整備などが行なわれておらず、今回はそのノウハウを得るため、また、Google Apps 導入・運用のお話を伺いたいと思い、参加しました。

<J社> 従業員は 800 名程で、全国 47 拠点に存在する PC を管理しています。海外に子会社があり、ASP を使って運用しているので、グループウェアはサイボウズ様のものを運用しています。

また、2 月に情報システム部を無視して iPad が導入されたので、どのように iPad が使われるのか見守っている状況です。

Google Apps を個人的(家庭内)に利用しており、この経験を生かして、30 名のユーザに Google Apps を導入したことがあります。

<K社> 1000 台の PC を、Sliver を使わずに自社で調達、運用をしています。海外拠点で伝票のシステムを導入していますが、運用がうまく回らないため、代替として、3 月 1 日から一部、Google Doc の利用を開始しました。ただ、Gmail やカレンダーは、ドメインが重なる、Web メールを禁止しているポリシーがあるため使用しておりません。

<L社> 研究所、オフィス、工場に存在する PC を管理しています。サーバの仮想化について検討していますが、ほとんど進んでいません。理由としては、ネットワークエンジニアが不在のため切り分けができないからです。また、Web メールはコンテンツフィルタ設定しているため、使えない状況です。

愛媛工場に 2500 台 PC がありますが、拠点に入れているルータが小規模向けのルータしかない状況であるため、最近、光のインターネット回線を導入しました。

Google Apps は導入を検討しましたが、データの置き場所がわからない、アメリカ連邦法で、データ開示を行なう必要があるという理由から、法務から許可を得ることができませんでした。

Microsoft はデータの置き場所を開示したり、データの開示はしないと聞きました。SLA があるため、社内的には Google Apps より MS を利用する方向です。

ただ、拠点のファイルサーバや AP サーバを遠隔バックアップしていますが、ネットワークが細いため困っています。

ディスカッション ↓

Q: Google Apps のネットワークトラフィックの問題をどのように対応していますか？

→A: ネットワーク帯域に負荷がかかっている時ですと、60M くらいかかります。

■ GoogleApps にグローバル対応について

→中国、日本、台湾、香港、インド、アメリカ、ヨーロッパに導入予定である。Google Apps のメリットとして非常に多くの言語に対応しており、国際化に対応しております。また、それぞれのドメインにも対応しています。

→Google Apps は日本では代理店を経由して販売及びサポートしています。海外拠点のサポートとしては、現在のところ代理店が海外の拠点でのサポートに対応していることが少ないので、Google を経由してサポートを行なっているようです。代理店の対応はこれからであると聞きました。

■モバイルセキュリティについて

Q: 端末の機種固有番号と SIM カードの固有は異なりますか？

→違います。端末のパスワードは機種固有番号に対して行なわれます。SIM カードに加えて、端末本体には機種固有番号が付与されています。例として、お財布ケータイは、機種固有番号で管理しています。このため、機種固有番号が変更になった場合は、お財布ケータイの情報を預ける必要があります。

→端末のロックは機種固有番号に紐付いているのでしょうか。

→登録されている端末に対してパスワードが紐付いているので、電話番号の登録を確認を行なう必要があります。

Q: 固体識別番号は成りすまし可能ですか？

→可能です。

■MDM 製品について

→MDM 市場としては海外から日本へ進出している状況です。MDM で、リモートワイプや管理者のパスワードを管理できるので固体識別番号、パスワードとあわせて MDM 製品を組み合わせることが必要となります。自社の場合は、電子証明書と絡めてモバイルデバイスを管理しています。

→MDM ツールを利用せずに、Android、iOS のシステムだけで提供されているので、管理機能(パスワード設定など)だけでは融通が利かず、管理に限界があります。パスワードなどを利用するだけでは、管理できないと言いたいです。

→今後、企業がスマートデバイスを利用する場合には MDM は必須であると思います。Google Apps の管理画面からも MDM の機能が搭載されています。必ず、ログインに関しては 6 桁のパスワードを求められるポリシーの適用やリモートワイプも可能です。

■Google Apps のデータの所在特定について

Q: Google Apps を利用した場合にはデータが各地のデータセンタに 6 重化後、分散して保存していますが、データの保存場所が不明になるのではないのでしょうか？

→その通りです。冗長性の観点ではメリットがあるが、データの所在場所が特定できません。顧客がクラウドサービスを選定する際にデータの所在を特定できることを選んでいることもある。

→顧客が契約時に SLA を確認することが重要です。契約時に必要とする情報に関連した情報を確認することが必要となります。

→ベンダーごとにデータセンタの場所を明示しているところもあります。

■クラウド上でデータが分散している場合の監査について

Q: 監査時に外部のクラウドのデータの所在確認はありますか？また、データの場所の所在を明確にする必要があるのでしょうか？

→: データの保存場所が明確になっていないものに関しては監査のしようがないです。

Q: Google Apps のようにパーティに分けてデータを分散している場合の監査に関してはどうなりますか？

→企業の契約などの手続きに関わる部分に関しては監査を実施することができますが、データセンタの所在に関する、システム監査については実施することができません。

Q:カシオ様の監査部門に関してはどのように行なっていますか？

→Mail を提示しなさいという場合に関しては、アーカイブを提示することで証跡を担保しています。メールのアーカイブは 10 年間データの保障を行なうことができます。

Q:メール文などのユーザに関わる部分に関しては担保可能ですが、元のデータの保存場所などに関する証跡については担保を行なうことができないのですが、どうすればよいのでしょうか。

→データを担保することができないので、災害時にクラウド上にあるデータの保存場所を明確にできないという点で監査検証を行なうことができません。

Q:米国内の保存されているデータに関してはどのようになるのでしょうか？情報の開示や、製品の情報に関連する情報の確認を行なうことが必要となります。

→米国内の法律に準じて開示を行なうことが必要となります。なので、米国が情報の開示義務が迫られた場合に関してはデータの開示を行なう必要があります。たとえ、データが各地に分散していたとしても、それは例外ではありません。

■クラウドによって監査がどのように変わるのか？

Q:従来の監査では、オンプレミスの環境であったため、監査は社内で完結していましたが、クラウドなどの環境の変化により監査も変わらざるを得ないのでしょうか？

→変わらざるを得ません。

Q:何か法制度や学会での変化を行なうことが監査の変化などはあるのでしょうか？

→変化という観点も必要ですが、クラウドを利用するとなった場合は、対象となるデータをどの程度担保されているのか SLA を確認する必要があります。例えば、Google の稼働率は 99.98%としてカウントをしていますが、10 分以内のサービスの停止に関してはシステムのダウンとしてカウントしない SLA となっています。各クラウドサービスによって停止と判断する SLA は異なるため、クラウドの選定を行なうときは注意が必要です。

■監査時のクラウドでのデータ提示について

→メールの場合は、アーカイブを提示することで対応可能ですが、どこにデータがあるのかはわかりません。

→ミッションクリティカルなシステムがどこまで反映されるのか決める必要があります。バックオフィスのようなものであれば、システムを利用することができます。

→ミッションクリティカルなシステムを利用して且つ停止をすることができないものに関しては、クラウドを利用することは控えたほうが良いです。バックオフィスのように利用するものに関しては利用を行うことができます。

■Google Apps の更新時の通知に関して

→Google Apps の情報を記載する事を必要とします。デザインや機能も随時アップロードされています。

Q:GUI の変更などに関しては事前通知がありますか？

→事前通知はあります。GUI の移行中に関しては、利用者が旧 GUI と新 GUI を選択することができます。

■Google Apps の利用の問い合わせ先

Q:何かわからない時や、困った事があるときはどこに問い合わせていますか？Google に直接問い合わせたい

ますか？

→代理店に問い合わせをしています。ヘルプで検索するとだいたい出てきます。

■Google Apps を導入時してコストカットはできますか？

→Google Apps 導入後はコストが 2/3 になりました。

→弊社は導入前後でコストはイコールだったので、導入することによって、一概にコストカットとはいえません。

企業によって異なる可能性があります。